

令和3年(2021年)4月7日

令和3年度長野県蘇南高等学校

入学式式辞 「桃介橋と私たち」

1 はじめに

本日、ここに令和3年度の長野県蘇南高等学校入学式を、南木曾町長・向井様、教育長・伊藤様のご臨席と保護者の皆様のご出席をいただき、挙行できることとなりました。厚く御礼を申し上げます。

晴れて入学を許可されて宣誓と署名をしてくださった35名の新入生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます。心から皆さんを歓迎します。木曾・中津川地域の急激な少子化により、新入生の数は少ないわけですが、今の本校には在校生・教職員の熱いエネルギーがあり、教育の根幹もこれまでと変わらず行いますから、どうか心配しないでください。

2 本校は「開拓者精神」を目指す

私たちの蘇南高等学校は、太平洋戦争の傷跡がまだ深く残っている戦後まもなくの時代に、この地域の若者が高校で学ぶことができるようにと、地域の大人たちが力を合わせて設立した高校で、今年で創立68年を迎えます。

本校が一番大切にしている言葉は、「開拓者精神」です。

私はいつも「開拓者精神」とは、未来の人々の幸せを想像して、今の自分が懸命に努力することだと、在校生に語りかけてきました。人はどうしても今の楽しいこと、今のラクなことに流されがちです。でもそうではなくて、未来を予想して、そのことから今を努力すること、これが「開拓者精神」です。

わかりやすい例をあげましょう。

蘇南高校のある、この丘を天白地区と言います。ここには対岸の三留野地区から桃介橋という木造の吊り橋がかかっています。この橋を建設したのは、福澤桃介。1万円札の肖像画に描かれた福澤諭吉の娘婿です。

彼は、明治から大正にかけて日本経済をけん引した実業家で、木曾川を水力発電所が立ち並ぶ電源開発の中心地にしようとしました。水を高いところから落としてモーターを回して電気をつくり、二百数十キロの送電線で大阪につないで、西日本の産業を動かそうとしたのです。福澤の会社、大同電力がこんにちの関西電力になっています。

桃介橋は、大正11年(1922年)に、発電所を建設する資材を運搬するために作られたもので、昔はトロッコ列車が走っていました。今でもレールの跡がわかるようにその部分の板の色が変えられています。

この桃介橋は、国道19号を通行していると、圧倒的な迫力で目にとびこんできます。皆さんは、桃介橋がなぜこんなに目立つのかを考えたことがありますか。ふつう、橋は川幅の一番狭いところに架けます。今日、渡ってきた三留野大橋のところが川幅が狭いのです。それに対して、桃介橋は、木曾川が大きく曲がっている川幅の最も広がっているところに、しかも斜めに架けられました。全長は、247.8mもあります。現存する最

古で最大の吊り橋であると評価する研究者もいます。当時の日本の技術だけでこれを作るのは無理であり、この橋は、なんとアメリカのニューヨークのブルックリン橋などの技術を応用しているのではないかと言う説があります。

つまり福澤桃介は、未来に橋を通る人々の幸せだけでなく、未来に橋を見て「きれいだ」と思う人々の幸せも予想して、世界の最先端に学んで、この橋を作ったのでしょう。福澤は、誰もが予想できることだけではなく、人が予想できないような未来の人々の幸せを思い描いたのです。

3 「開拓者精神」をうけつぐ

やがて、桃介橋は蘇南高校の通学路になります。上級生だけが桃介橋を通れる特権があって、1年生が通ると威張る上級生に理不尽に叱られたという思い出話を地元の年配の方から聞きます。(今はそんなことはありませんから、安心してね。)

長年の風雨にさらされて、桃介橋の木材は朽ち果て、あちこちに穴が開き、危険だということで、南木曾町は橋を通行禁止にします。ところが、町の人々の中からこの橋を復活させようという運動が起こり、1993年に桃介橋は現在の姿に修復されました。ちなみに、これも皆さんに想像していただきたいのですが、お金を出して新しい材木を買えば修理ができるというような簡単な話ではありません。70年の歳月の中で、建築の安全基準が格段に厳しくなっていますから、橋の外観をなるべく変えないまま、現代の安全性に適合するような最新技術の構造に大モデルチェンジをしているわけなのです。これを南木曾町の人々は、なしとげました。

未来に橋を通る人々の幸せだけでなく、未来に橋を見て「きれいだ」と思う人々の幸せも予想して、桃介橋を未来に残したのです。

話の舞台を蘇南高校に移します。

ちょうど一年前、入学式を行い、新しい高校生活のオリエンテーションを行っているまさにそのとき、新型コロナウイルス感染症の流行により全国の高校が臨時休校に追い込まれました。いつ再開されるかわからない休校であり、長い出口のないトンネルに入ったような思いでした。

私は休校になる直前、全校の生徒にこう言いました。

——蘇南高校は負けない。未来の人々や自分の幸せを予想して、今しかできないことに取り組んでみよう。フランス語に「ブリコラージュ」という言葉がある。自分の持っている経験・知識を総動員して目の前の壁をのりこえていくことだ。蘇南高校の生徒は「ブリコラージュ」ができるはずだ。

休校が明けて、生徒たちから実にたくさんの取組の報告を受けました。家族と荒地を開墾してたくさんの野菜を作った女子がいます。孤独にならないよう、各自が撮影した映像をひとつのドラマにつないで励まし合った部活やクラスがありました。小説を書いた男子もいました。全校生徒の臨時休校が明けたらやってみたくて集めてアルバムを作った女子もいました。

つまり、未来の人々の幸せを予想して、今、努力をする「開拓者精神」は、このコロナの時代を生きる蘇南高校の生徒たちにも、受け継がれているのです。そして蘇南高校

の生徒たちは、お互いの心に「橋」を架けているのです。

皆さんは、今日から私たち「開拓者」の仲間になります。一緒に未来を見つめ、橋を作っていきましょう。

4 おわりに

さて、保護者の皆様、お子様のご入学に心からお祝いを申し上げます。

どうかこれからの三年間、私たち蘇南高校の教職員と手を携えながら、つまり私たちの間にも「橋」を作りながら、お子様の高校生活を支えてくださるよう、お願いいたします。

親として未来を予想するとは、どういうことでしょうか。

お子さんが未来に歩みたいことに耳を傾け、応援していただければ幸いです。そして世界の未来、日本の未来、木曾・中津川の未来について、何が困難で、それをどのように乗り越えていくべきか、みんなで考えていければいいと思っています。

では、新入生の皆さん、ここから蘇南高校の日々が始まります。

未来は見えにくい。

だからこそ、未来を想像し、かけがえのない今を大切に生きていきましょう！

令和3年（2021年）4月7日

長野県蘇南高等学校長 小川幸司